

双语故事

狐狸小权

一颗硬糖

新美南吉



バイリンガル版^{ばん}

ぎつね^ね ・ あめ玉^{たま}
ごん 狐 ・ あめ玉

にいみなんきち
新美南吉

汉语 和 日语

ちゅうごくご と にほんご

たげんごでんしえほんぶんこ
多言語電子絵本文庫 14

目 录

狐狸小权	5
一颗硬糖	42

前言

2003年的时候，我听到一位和日本人结婚的外国母亲说：“日本，完全不需要我国家的语言”。我由衷地希望，孩子们能继承父母双方语言，所以从2009年开始着力于多语种电子绘本的制作。

我和我的团队将民间故事翻译成多国文字，并录制了语音版，制作成多媒体DAISY形式的电子绘本，在网上公开。

2022年，有读者提出想阅读纸质书籍，因此我们开始着手制作本系列丛书。大家可以通过RAINBOW的主页收听本书的相关语音。

<はじめに>

2003年、国際結婚をしている外国人のお母さんが、「日本では私のことばは必要がない」と言うのを聞きました。両親のことばが子どもに引き継がれるように願って、2009年から多言語電子絵本を制作してきています。

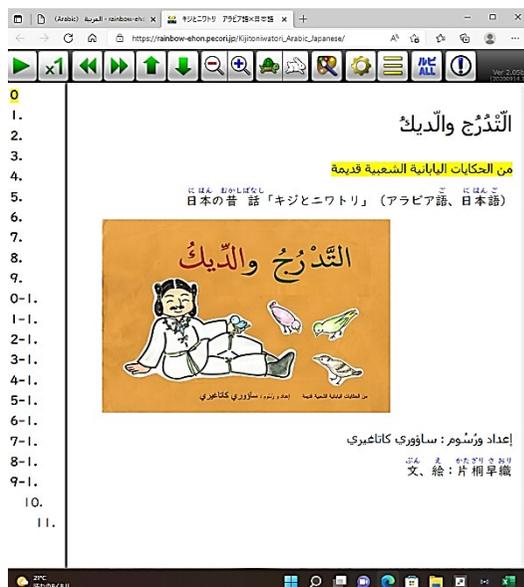
お話を多言語に翻訳し、音訳して、マルチメディアデイジー形式の電子絵本をつくり、インターネットで公開しています。

2022年1月、印刷された本で読みたいという要望が寄せられ、本誌を作ることになりました。音声はRAINBOWのサイトから聴いてください。

多媒体 DAISY 图书

多媒体 DAISY 图书是为帮助无法流利阅读印刷文字的人而设计的电子书。画面上的文字会与语音同步标识为黄色底色，读者可以简单明了地知道现在读到哪里了。文字大小和语速也可根据读者的喜好自由调节。

大家可使用电脑、平板电脑、手机收听 RAINBOW 收录的所有绘本。



<マルチメディアデイジー図書について>

印刷された文字をすらすら読めない人の読書を助けてくれる電子図書です。

画面 上 の文字は、音声とともに黄色くハイライトしていくので、どこをよ
いるかわかります。文字の大きさや速さも読む人に合わせて、変えることができ
ます。

RAINBOW の作品はパソコン、タブレット、スマートフォンで、すぐに再生
する ChattyBooks (チャッティブックス) になっています。

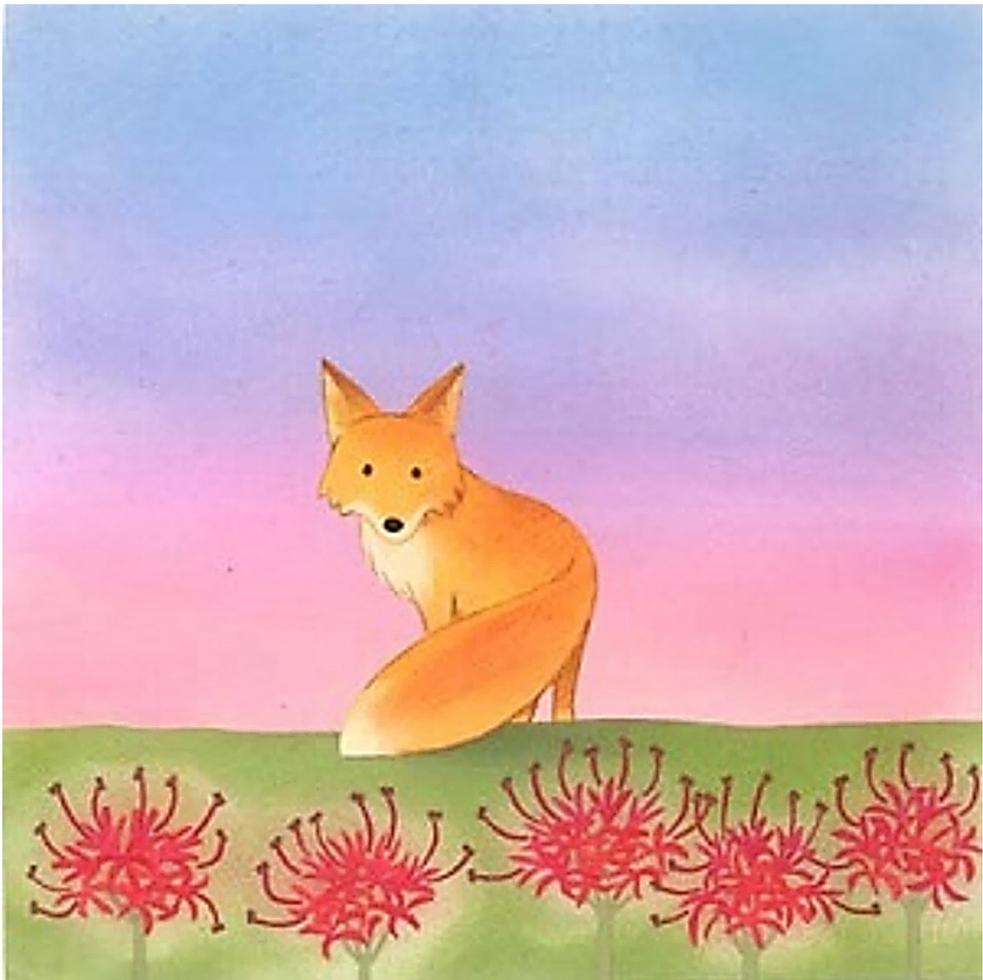
多言語絵本の会 RAINBOW <https://www.rainbow-ehon.com>

狐狸小叔

ぎつね
ごん 狐

新美南吉

にい みなんきち
新美南吉



ほんやく わたなべ とし
翻訳：渡辺 敏

—

这是我小时候从村里的茂平老爷爷那儿听来的故事。

据说很久以前在我们村子附近，在一个叫中山的地方有个小城堡，里面住着一位中山大人。

いち

—

これは、^{わたし}私が ^{ちい}小さい ときに、^{むら}村の ^{もへい}茂平と いう おじい
さんから ^{はなし}きいた お話です。

むかしは、^{わたし}私たちの ^{むら}村の ^{ちかくの}ちかくの、^{なかやま}中山と いう ところに
^{ちい}小さな ^{しろ}お城が あって、^{なかやま}中山さまと いう おとのさまが、おら
れたそうです。



离中山不远的山中，住着一只叫“小权”的狐狸。

小权是一只孤苦伶仃的小狐狸，在一片羊齿草茂密生长的森林中，住在自己挖的洞里。小权不论白天或是晚上，总会到附近的村子里去捣乱。要么跑到田里把芋头刨得乱七八糟、给晒着的油菜杆放

一把火，要么把挂在农家后院的辣椒揪掉几个，总之干了很多坏事。

その ^{なかやま}中山から、^{すこ}少し ^{はなれた}はなれた ^{やま}山の ^{なか}中に、「^{ぎつね}ごん狐」という ^{きつね}狐が いました。

ごんは、^{ひとり}一人ぼっちの ^{こぎつね}小狐で、^{しだの}しだの ^{いっ}一ぱい ^{しげった}しげった ^{もり}森の ^{なか}中に ^{あな}穴を ^{ほって}ほって ^す住んで いました。そして、^{よる}夜でも ^{ひる}昼でも、あたりの ^{むら}村へ ^で出て きて、いたずら ^{ばかり}ばかり しました。はたけへ ^{はい}入って ^{いも}芋を ^{ほり}ほりちらしたり、^{なたね}菜種がらの、ほしてあるのへ ^ひ火を ^{つけたり}つけたり、^{ひやくしやうや}百姓家の ^{うらて}裏手に ^{つるして}つるしてある ^{とんがらし}とんがらしを ^{むしり}むしりにとって、^{いったり}いったり、^{いろん}いろんなことを しました。

有一年秋天，接连下了两三天雨，小权也没法出门就一直呆在洞中。

^{ある}或 ^{あき}秋の ^{こと}ことでした。二、三日 ^にに ^{さん}さん ^{にち}にち ^{あめ}雨が ^{ふり}ふりつづいた ^{その}その ^{あいだ}間、^{ごん}ごんは、^{そと}外へも ^で出られなくて ^{あな}穴の ^{なか}中に ^{しゃがんで}しゃがんで

いました。

雨停后，小权终于松了口气从洞里爬出来。
天空变得一片晴朗，林中回荡着伯劳鸟婉转的高歌。

あめが あがると、ごんは、ほっとして あなから はい出ました。
そらは からっと は 晴れて いて、も 舌 鳥の こえが きんきん、ひび
いて いました。



小权来到村里的小河堤，周围的芒草穗上还闪烁着晶莹的雨珠。河里的水向来很少，不过经过三天连续下雨，河水一下涨起来了。平时河边的芒草呀、胡枝子呀是不会浸到河水里的，这场大雨后却连茎带叶被冲倒在河水里，随着黄浊的河水上下翻滚。小权沿着泥泞的道路向下游走去。

ごんは、^{むら}村の ^{おがわ}小川の ^{つつみ}堤まで ^て出て ^き来ました。あたりの、
すすきの ^ほ穂には、まだ ^{あめ}雨の ^{しずく}しずくが ^{ひか}光って いました。
^{かわ}川は、いつもは ^{みず}水が ^{すくな}少ないのですが、^{みっか}三日もの ^{あめ}雨で、^{みず}水が、
どっと ^{まして}まして いました。ただの ^{みず}ときは ^{みず}水に ^{つか}つかる ^ここ
との ^{かわ}ない、^{かわ}川べりの ^{すすき}すすきや、^{はぎ}萩の ^{かぶ}株が、^き黄いろく
にごった ^{みず}水に ^{よこ}横だおしに ^ななって、^ももまれて います。ごん
は ^{かわしも}川下の ^{ほう}方へと、^ぬぬかるみ ^{みち}みちを ^{ある}歩いて いました。

这时突然看到有个人在河里不知道在做什么。小权尽量不被发现，悄悄靠近野草浓密的地方，从那儿一动不动偷偷地看。

ふと 見ると、川の 中に 人が いて、何か やって います。ごんは、見つからないように、そうっと 草の 深い ところへ 歩きよって、そこから じっと のぞいて みました。

“是兵十啊！”小权马上认出来了。兵十把破烂的黑衣挽起来，站在齐腰深的水中，摆弄着一种两端固定在河两岸的长形渔网捕鱼。他头上绑着毛巾，脸颊上沾了一片圆圆的胡枝子叶，活像长了一颗大黑痣在上面。

「兵十だな」と、ごんは 思いました。兵十は ぼろぼろの 黒い きものを まくし上げて、腰の ところまで 水に ひとりながら、魚を とる、はりきりという、網を ゆすぶって いました。はちまきを した 顔の 横っちょうに、まるい 萩の 葉が 一まい、大きな 黒子みたいに へばりついて いました。



过了一会儿，兵十把渔网中段最下方像兜子一样的部分从水里捞了起来。兜子里乱七八糟装满了树根、叶子和烂木片等等，不过中间还夹杂着一些闪闪发亮的白色的东西，都是肥肥的鳗鱼还有大只沙钻鱼的白肚皮。兵十把鳗鱼、沙钻鱼连同垃圾都一起倒入鱼篓，并再次扎好渔网的兜口放入了水中。

しばらくすると、兵十^{ひょうじゅう}は、はりきり網^{あみ}のいちばんうしろの、袋^{ふくろ}のようになつたところを、水^{みず}の中^{なか}からもちあげました。その中^{なか}には、芝^{しば}の根^ねや、草^{くさ}の葉^はや、くさった木ぎれなどが、ごちゃごちゃはいつていましたが、でもところどころ、白^{しろ}いものがきらきら光^{ひか}っています。それは、ふというなぎの腹^{はら}や、大きなきすの腹^{はら}でした。兵十^{ひょうじゅう}は、びくの中^{なか}へ、そのうなぎやきすを、ごみと一^{いっ}しよにぶちこみました。そして、また、袋^{ふくろ}の口^{くち}をしばって、水^{みず}の中^{なか}へ入^いれました。

然后兵十拿着鱼篓上了岸把它放在河堤上，好像在找什么东西似地往上游跑去。

兵十^{ひょうじゅう}はそれから、びくを^{もって}川^{かわ}から上^{あが}りびくを^{どて}土手においといて、何^{なに}をさがしにか、川^{かわ}上^{かみ}の方^{ほう}へかけていきました。



兵十一离开，小杈嗖地一下从草丛里跳出来，马上跑到了鱼篓旁边。它突然想到要搞一个恶作剧。小杈把鱼篓中的鱼抓出来，朝着长型渔网的下游，“嘭嘭”地把鱼全扔到了河里，每条鱼都随着“噗通”一声响消失在浑浊的河水里了。

ひょうじゅう 兵十が いなく になると、ごんは、ぴょいと ぐさの なかから
とび出して、びくの そばへ かけつけました。ちよいと、いた
ずらが したく になったのです。ごんは びくの なか さかなを
つかみ出しては、はりきり 網の かかって いる ところより
しもて 川の なか を 目がけて、ぽんぽん なげこみました。
どの さかなも、「とぼん」と おと を た 立てながら、にごった みずの
なか へ もぐりこみました。

小权开始抓最后一条肥鳗鱼，没想到鱼身滑溜溜的根本抓不到。小权有点不耐烦了，一头扎进鱼篓，咬住了鳗鱼的头，受惊的鳗鱼“吱”地一声缠住了小权的脖子。正在这个时候听到兵十从前方大喊“啊！狐狸小偷！”。小权吓得跳了起来，想扔掉鳗鱼逃跑，可是鳗鱼死死缠在脖子上根本甩不开，小权只好带着鳗鱼惊慌失措地逃跑了。

いち しまいに、ふと うなぎを つかみに かかりました
が、なに ぬるぬると すべりぬけるので、手では つかめま

せん。ごんは じれったく なって、^{あたま}頭を びくの ^{なか}中に つつ
こんで、うなぎの ^{あたま}頭を ^{くち}口に くわえました。うなぎは、キュ
ッと ^い言^って ごんの ^{くび}首へ まきつきました。
その とたんに ^{ひょうじゅう}兵十が、^{むこ}向うから、「うわア ^{ぎつね}ぬすと 狐
め」と、どなりたてました。

ごんは、びっくりして とびあがりました。うなぎを ふりす
てて にげようと しましたが、うなぎは、ごんの ^{くび}首に
まきついたまま はなれません。ごんは そのまま ^{よこ}横^っとびに
とび出^だして ^{いっ}一^っしょうけんめいに、にげて いきました。

跑回洞穴附近，在赤杨树^下回头看了看，发现
兵十并没有追过来。

小权松^了了口气，把鳗鱼^的头咬碎，总算把鳗鱼
从脖子上拉下来，然后把鳗鱼晾在了洞外的叶子上。

ほら^{あな}穴^{ちか}の 近^くの、はんの ^き木の ^{した}下^で ふりかえって ^み見^ま
したが、^{ひょうじゅう}兵十は ^お追^っかけては ^き来^ませんでした。

ごんは、ほっとして、うなぎの ^{あたま}頭^を かみくだき、やっと

はずして ^{あな}穴の そとの、草の ^は葉の ^{うえ}上に のせて おきました。

二

大概过了十天，小权从一个叫弥助的农家后院经过时，弥助的老婆正在无花果的树荫下染黑牙齿。路过铁匠铺新兵卫家后院，新兵卫的老婆正在梳理头发。小权想：

“哼哼，一定是村里有什么事吧。”

“是什么呢？ 是秋季庙会吗？ 如果是庙会，应该会听到打鼓呀、吹笛子的声音呀。最重要的是，神社里的旗子要竖起来的呀。”

に

^{とおか}十日ほど たって、^{やすけ}ごんが、^{ひやくしょう}弥助と ^{いえ}いう お百姓の 家の ^{うら}裏を ^{とお}通りかかりますと、そこの、いちじくの ^き木の かげで、^{やすけ}弥助の ^{かない}家内が、おはぐろを つけて いました。^{かじや}鍛冶屋の ^{しん}新 ^{べえ}兵衛の ^{いえ}家の ^{うら}うらを ^{とお}通ると、^{しんべえ}新兵衛の ^{かない}家内が ^{かみ}髪を すいて いました。

ごんは、「ふふん、村に 何か あるんだな」と、思いました。
「何だろう、秋祭かな。祭なら、太鼓や 笛の 音が しそうな
ものだ。それに 第一、お宮に のぼりが 立つ はずだが」

带着疑问，不知不觉来到前院有一口红色水井
的兵十家门前。在兵十家狭窄破旧的屋里聚满了
人。穿着和服正装、腰里别着手巾的女人们正在前
院起灶生火，大锅里咕嘟咕嘟地煮着东西。

こんな ことを 考えながら やって 来ますと、いつの間に
か、表に 赤い 井戸の ある、兵十の 家の 前へ 来ました。
その 小さな、こわれかけた 家の 中には、大勢の 人が あ
つまって いました。よそいきの 着物を 着て、腰に 手拭を
さげたり した 女たちが、表の かまどで 火を たいて い
ます。大きな 鍋の 中では、何か ぐずぐず 煮えて いました。

“哦，是葬礼。” 小权明白了。

“兵十家的谁死了吗？”

「ああ、葬式だ」と、ごんは 思いました。

「兵十の家のだれが死んだんだろう」

过了正午，小权去了村子的墓地，躲在六地藏石像的后面。天气很好，远处城楼顶的瓦片反射着白晃晃的光，墓地里的石蒜花如红色的云锦般正在盛开。这时从村子方向传来了当当当的钟声，这是要出殡了。

お午が すぎると、ごんは、村の 墓地へ 行って、六地藏さんの かげに かくれて いました。いい お天気で、遠く 向うには、お城の 屋根瓦が 光って います。墓地には、ひがん花が、赤い 布の ように さきつづいて いました。と、村の方から、カーン、カーン、と、鐘が 鳴って 来ました。葬式の 出る 合図です。



过了不久，开始看到穿着白色丧服的送殡队伍向这边走来，人们的说话声也渐渐近了。之后队伍进了墓地，人群走过的地方石蒜花被踩倒了一地。

やがて、^{しろ}白い ^{きもの}着物を ^{きた}着た ^{そうれつ}葬列の ものたちが やって
くるのが ^{ちらちら}見えはじめました。^{はなしごえ}話声も ^{ちか}近く なりま

した。葬列は 墓地へ はいって 来ました。人々が 通った
あとには、ひがん花が、ふみおられて いました。

小权踮起脚伸长脖子，看到兵十穿一身白色丧
服举着牌位。看上去总是像红薯一样十分有精神的
脸，今天却透着一股憔悴。

“啊，死的是兵十的妈妈呀！”

小权终于明白了，把头缩了回去。

ごんは のびあがって 見ました。兵十が、白い かみしもを
つけて、位牌を ささげて います。いつもは、赤い さつま芋
みたいな 元気の いい 顔が、きょうは 何だか しおれて
いました。

「ははん、死んだのは 兵十の おっ母だ」

ごんは そう 思いながら、頭を ひっこめました。



那天晚上，小权在洞中想了很久：“兵十的妈妈一定是卧病在床想吃鳗鱼，所以兵十就拿着渔网去捕鱼。但是被我捣乱抢走了鳗鱼，结果兵十没能给妈妈吃上鳗鱼她就死了。啊！妈妈一定是念叨着‘想吃

鰻魚、想吃鰻魚’地死去了。唉!我要是没干那些坏事就好了。 ”

その ^{ばん} 晩、^{あな} ごんは、^{あな} 穴の ^{なか} 中で ^{かんが} 考えました。

「^{ひょうじゅう} 兵十の ^{かあ} おっ母は、^{とこ} 床に ^{ついて} ついて、^{うなぎ} うなぎが ^た 食べたい
と ^い 言ったに ^{ちが} ちがいない。それで ^{ひょうじゅう} 兵十が ^{はりきり} はりきり ^{あみ} 網を
もち出したんだ。ところが、わしが ^{いた} いたずらを ^{して} して、^{うなぎ} うなぎ
を ^と にとって ^き 来て ^{しま} しまった。だから ^{ひょうじゅう} 兵十は、^{かあ} おっ母に ^{うなぎ} うな
ぎを ^た 食べさせる ^{こと} ことが ^{でき} できなかった。そのまま ^{かあ} おっ母
は、^し 死んじやったに ^{ちが} ちがいない。ああ、^{うなぎ} うなぎが ^た 食べたい、
^{うなぎ} うなぎが ^た 食べたいと ^{おも} おもいながら、^し 死んだんだろう。
^{ちよ} ちょッ、^{あんな} あんな ^{いた} いたずらを ^{しな} しなけりや ^よ よかった」

三

兵十正在红色水井边淘麦粒。一直以来，兵十和母亲相依为命过着贫穷的生活。现在妈妈死了，兵十只剩下孤零零的一个人。小权从杂物房后看着

兵十，不由想道：“兵十和我一样都是孤苦伶仃的呀！”

さん
三

ひょうじゅうが、あかい 井戸の ところで、むぎを といで いました。

ひょうじゅうは 今まで、おっ母と 二人きりで、まず 貧しい 暮らしを
して いた もので、おっ母が 死んで しまっては、もう
ひとり
一人ぼっちでした。

「おれと おなじ ひとり 一人ぼっちの ひょうじゅうか」

こちらの ものおき 物置の 後ろから 見て いた ごんは、そう おも
いました。

小权准备离开杂物房时，不远处传来沙丁鱼的叫卖声：“沙丁鱼便宜卖了！新鲜的沙丁鱼！”

小权向传来响亮叫卖声的方向跑去，于是看到弥助的老婆从后门走出来说：“给我几条沙丁鱼吧！”
卖鱼人把装鱼篓的车停在路旁，两手抓起亮闪闪的沙丁鱼进了弥助家。



ごんは ^{ものおき}物置の そばを はなれて、^{むこ}向うへ いきかけます
と、どこかで、いわしを ^う売る ^{こえ}声が します。

「いわしの やすうりだアい。いきの いい いわしだアい」

ごんは、その、いせいの いい ^{こえ}声の する ^{ほう}方へ ^{はし}走って いき
ました。と、^{やすけ}弥助の おかみさんが、^{うらとぐち}裏戸口から、「いわしを

おくれ」と言いました。いわし^{うり}売は、いわしの かごを つんだ
くるま^{みち}車^を、道^{ばた}に おいて、ぴかぴか^{ひか} 光る いわしを^{りょうて} 両手^で
つかんで、弥助^{やすけ}の 家^{いえ}の 中^{なか}へ もって はいりました。

小权乘机从鱼篓里抓了五、六只沙丁鱼，朝刚才来的方向跑回去。从兵十家后门把鱼扔进屋里，然后跑回洞穴去了。小权在回洞穴途中^の山坡上回头望去，可以远远看到兵十还在井边淘麦粒的身影。

小权心想终于做了件好事，偿还偷了鳗鱼的罪过。

ごんは その すきまに、かごの^{なか} 中^{から}、五、六^{ご ろっ}ぴきの
いわしを つかみ^だ出して、もと^き 来^{ほう}た 方^へ かけだしました。
そして、兵十^{ひょうじゅう}の 家^{いえ}の 裏口^{うらぐち}から、家^{いえ}の 中^{なか}へ いわしを^な 投げ
こんで、穴^{あな}へ^{むか} 向^{って} かけもどりました。途^{とちゅう}中^のの 坂^{さか}の^{うえ} 上^で
ふりかえって^み 見^{ます}すと、兵十^{ひょうじゅう}が まだ、井戸^{いど}の^{ところ}で^{むぎ} 麦
を^とい^で いるのが^{ちい} 小^みさく^み 見^えました。

ごんは、うなぎの つぐないに、まず ^{ひと}一つ、いい ことを
したと ^{おも}思いました。

第二天，小权去山上采了很多栗子，然后抱着
栗子来到兵十家。小权从后门偷偷一瞧，看到兵十
午饭刚刚吃了一半，正端着碗发呆。奇怪的是兵十
的脸颊上有受伤的痕迹，小权正纳闷到底是怎么回事，
就听见兵十在自言自语一个人念叨：

つぎの ^ひ日には、ごんは ^{やま}山で ^{くり}栗を ^{どっさり}ひろって、
それを ^{かかえて}、^{ひょうじゅう}兵十の ^{いえ}家へ ^{いきました}。裏口から ^{のぞ}
いて ^{みます}と、^{ひょうじゅう}兵十は、^{ひるめし}午飯を ^{たべかけて}、^{ちやわん}茶椀を ^{もった}
まま、ぼんやりと ^{かんが}考えこんで ^{いました}。へんな ことには
^{ひょうじゅう}兵十の ^{ほっ}頬ぺたに、^{きず}かすり傷が ^{ついて} ^{います}。どう ^{したん}
だろうと、ごんが ^{おも}思っ ^{ています}と、^{ひょうじゅう}兵十が ^{ひとりごと}を
いいました。



“到底是谁把什么沙丁鱼扔到我家，害得我被当成偷鱼贼，挨了卖鱼的那个家伙一顿痛打。”

「^{いっ}たい だれが、いわし なんかを おれの ^{いえ}家へ ほうり
こんで ^いったんだろう。おかげで おれは、^{ぬす}盗人と ^{おも}思われ

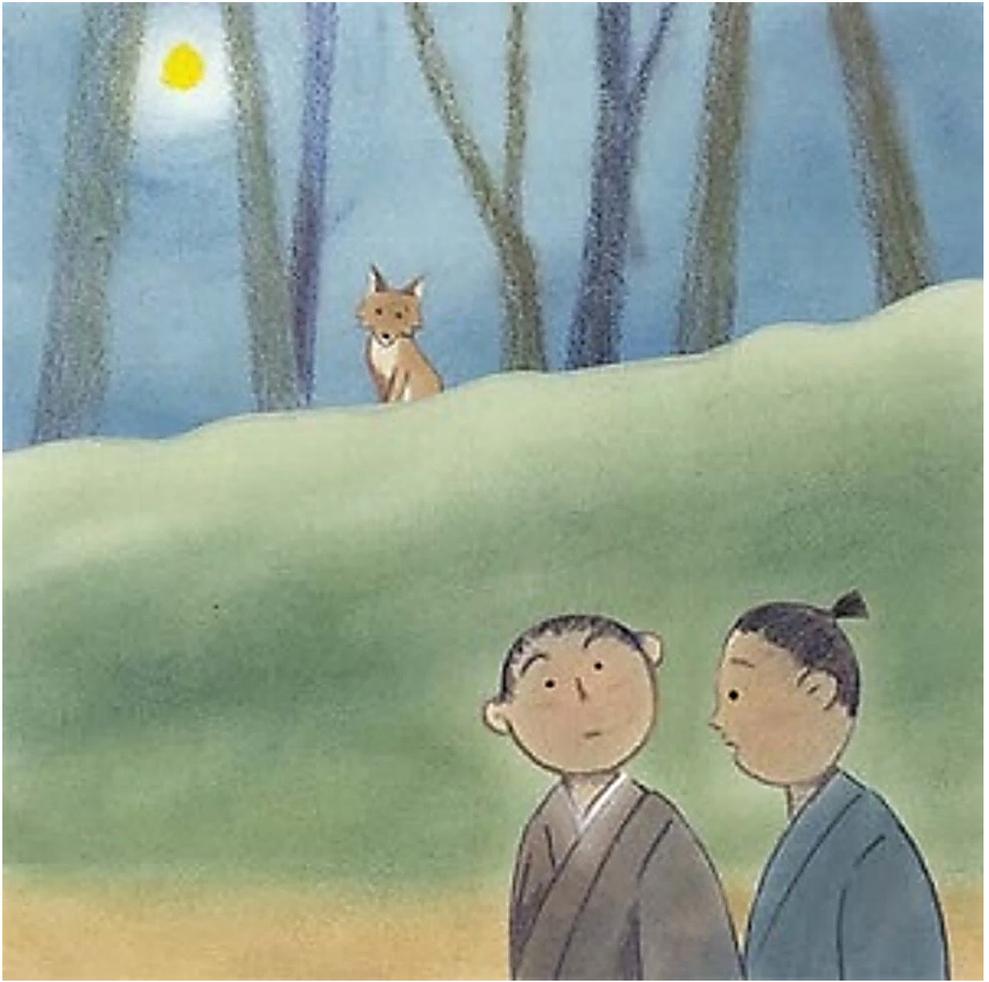
て、いわし屋の やつに、ひどい 目に あわされた」と、ぶつ
ぶつ 言って います。

小权听到后心想，我这真是帮了倒忙。可怜的
兵十居然被卖鱼的痛打，还受了那么严重的伤。小
权心中略感不安，悄悄绕到杂物房门口把栗子放下
回家了。

第三天、第四天，小权都捡栗子送到兵十家。
第四天，小权不仅送去栗子，还送了两三株松茸。

ごんは、これは しまったと おも 思いました。かわいそうに 兵
十は、いわし屋に ぶんなぐられて、あんな きず 傷まで つけられ
たのか。ごんは こう おもいながら、そっと ものおき 物置の ほう
まわって その いりぐち 入口に、くり 栗を おいて かえりました。

つぎの ひも、その つぎの ひも ごんは、くり 栗を ひろって
は、ひょうじゅう の いえ 家へ もって きて やりました。その つぎの
ひ 日には、くり 栗 ばかりで なく、まつたけも に、さん 三ぼん もって
いきました。



四

一个月色很美的夜晚，小权溜溜达达出去玩。经过中山大人的城堡又往前走了一段时，小路对面似乎有人走过来，可以听到说话声。秋虫金琵琶唧唧、唧唧地叫着。

月のいい晩でした。ごんは、ぶらぶらあそびに出かけ
ました。中山さまのお城の下をとお通ってすこしいくと、
ほそみちおこ道の向うから、だれかく来るようです。話声はなしごえがきこ聞えま
す。チンチロリン、チンチロリンとまつむし松虫がな鳴いています。

小权躲在路边不敢出声。说话声越来越近了，
是兵十和一个叫加助的农民。

兵十说：“对了，加助！”

“嗯？”

“最近，我身边总有怪事发生。”

“什么事？”

“母亲死后，不知道是什么人，每天每天都给
我送来栗子呀松茸什么的。”

“哦？是谁呀？”

“就是不知道是谁呀，总是在我没察觉的时候
送来。”

ごんは、^{みち}道の ^{かた}片がわに かくれて、じっとして いました。

^{はなしごえ}話声は だんだん ^{ちか}近く になりました。それは、^{ひょうじゅう}兵十と ^{かすけ}加助

と いう ^{ひやくしやう}お百姓でした。

「そうそう、なあ ^{かすけ}加助」と、^{ひょうじゅう}兵十が いいました。

「ああん？」

「おれあ、このごろ、とても ふしぎな ことが あるんだ」

「何が？」

「おっ^{かあ}母が ^し死んでからは、だれだか ^し知らんが、おれに ^{くり}栗や
まつたけ なんかを、まいにち まいにち くれるんだよ」

「ふうん、だれが？」

「それが わからんのだよ。おれの ^し知らん うちに、おいて
いくんだ」

小权悄悄跟在两个人后面。

“真的吗？”

“真的。你要是不相信，明天来我家看好了，
让你看看那栗子。”

“哎呦！世上还真有怪事。”

之后两人都不再说话继续往前走。

ごんは、ふたりの あとを つけて いました。

「ほんとかい？」

「ほんとだとも。うそと おも 思うなら、あした みに 来いよ。

その 栗を 見せて やるよ」

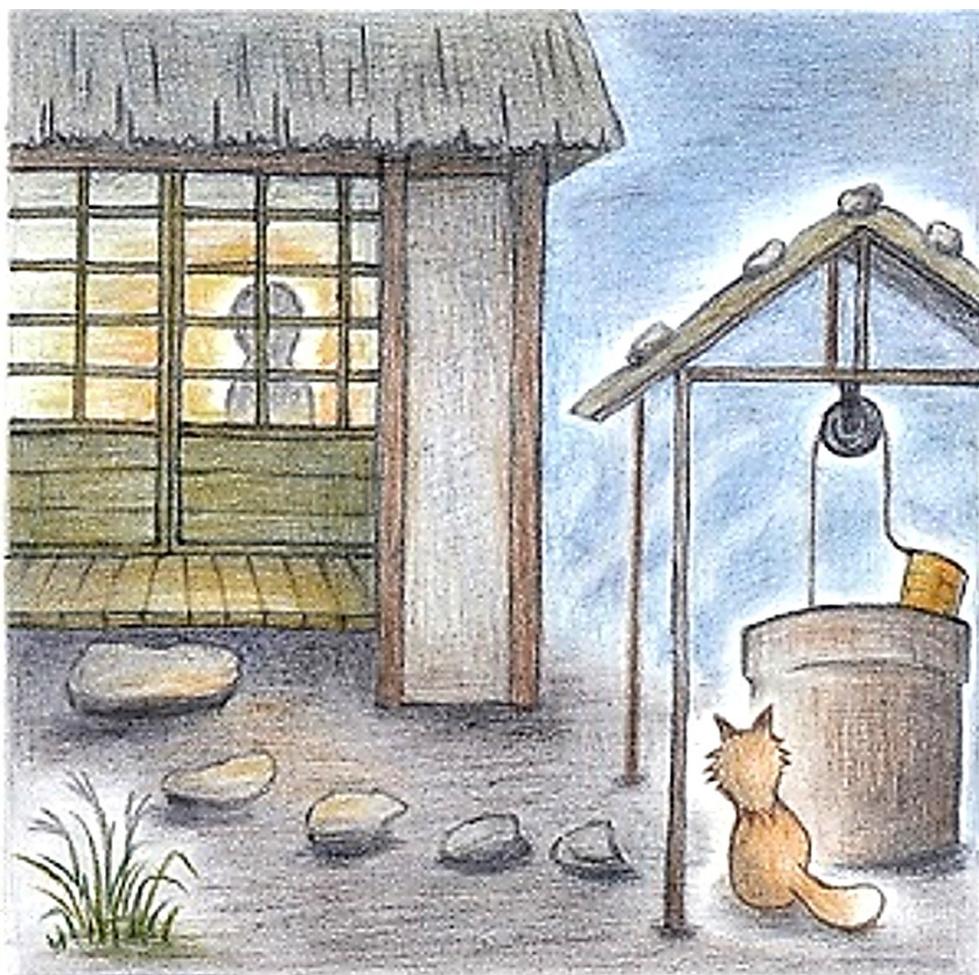
「へえ、へんな ことも あるもんだなア」

それなり、二人は だまって ある 歩いて いました。

加助忽然回头看了看身后，小权吃了一惊，赶紧把身体缩成一小团停住不动。加助并没有发现小权，就急匆匆地继续走了。两人到了一个叫吉兵卫的农家进了屋。屋里传出“通通通通”敲木鱼的声音，灯光照在纸拉窗上，一个大光头的影子在上面晃来晃去。小权心想“是要念经呢！”，就蹲在了井边。过了一会儿，又有三个人结伴而来进了吉兵卫的家，接着屋里传出了念经的声音。

加助^{かすけ}が ひょいと、後^{うしろ}を 見^みました。ごんは びくっとして、小さく なって たちどまりました。加助^{かすけ}は、ごんには 気^きが つかないで、そのまま さっさと あるいはきました。

吉兵衛^{きちべえ}と いう お百姓^{ひやくしやう}の 家^{いえ}まで 来^くると、二人^{ふたり}は そこへ はいって きました。ポンポンポンポンと 木魚^{もくぎよ}の 音^{おと}が して います。窓^{まど}の 障子^{しょうじ}に あかりが さして いて、大きな 坊主頭^{ぼうずあたま}が うつつて 動^{うご}いて いました。ごんは、「おねんぶつが あるんだな」と 思^{おも}いながら 井戸^{いど}の そばに しゃがんで いました。しばらく すると、また 三人^{さんにん}ほど、人^{ひと}が つれだつて 吉兵衛^{きちべえ}の 家^{いえ}へ はいって きました。お経^{きやう}を 読^よむ 声^{こえ}が きこえて 来^きました。



五

小权一直蹲在井旁等到念经结束。兵十和加助又一起往回走。小权想听听两人说什么就跟在他们后面，踩着兵十的影子前行。

走到城堡前时，加助突然冒出一句话：

“你刚才说的事，肯定是神仙老爷做的。”

“啊？”兵十吃了一惊，看着加助的脸。

“我刚才一直在想，不论怎么想，都觉得不像凡人做的事，应该是神仙。神仙老爷可怜你孤零零一个人，就给你送来各种东西了。”

“真的吗？”

“当然。所以每天感谢神仙老爷就可以了。”

“嗯！”

こ
五

ごんは、おねんぶつが すむまで、井戸の そばに しゃがんで いました。兵十と 加助は、また 一しょに かえって いきます。ごんは、二人の 話を きこうと 思って、ついて きました。

兵十の 影法師を ふみふみ きました。

お城の 前まで 来た とき、加助が 言い出しました。

「さっきの 話は、きっと、そりゃあ、神さまの しわざだぞ」

「えっ？」と、兵十ひょうじゅうはびっくりして、加助かすけの顔かおを見みました。

「おれは、あれからずっと考かんがえていたが、どうも、そりゃ、人間にんげんじゃない、神かみさまだ、神かみさまが、お前まえがたった一人ひとりになったのをあわれに思おもわっしやって、いろんなものをめぐんで下くださるんだよ」

「そうかなあ」

「そうだとも。だから、まいにち神かみさまに礼れいを言いうが
いいよ」

「うん」

小权心想兵十这家伙好没意思啊，那是我送的栗子和松茸，不谢我谢什么神仙，我真是白费了一番心思。

ごんは、へえ、こいつはつまらないなと思おもいました。おれが、栗くりや松まつたけをも持って行ってやるのに、そのおれには礼れいをいわないで、神かみさまに礼れいをいうんじゃア、おれは、引ひき合あわらないなあ。



六

隔天，小权又拿着栗子去了兵十家。兵十正在杂物房中搓绳，小权就从兵十家后门悄悄溜进了屋内。

ろく 六

その あくる 日 も び も ぐんは、^{くり}栗を もって、^{ひょうじゅう}兵十の ^{いえ}家へ

て 出 かけ ました。 兵 十 は 物 置 で 繩 を な っ て い ました。 そ れ
で ご ん は 家 の 裏 口 から、 こ っ そ り 中 へ は い り ました。

正 在 这 时 兵 十 刚 好 抬 起 了 头 ， 发 现 居 然 有 只 狐
狸 跑 进 了 家 里 ， 而 且 是 上 次 偷 了 鰻 鱼 的 那 家 伙 ， 恐
怕 又 是 来 捣 乱 的 吧 。

“ 等 着 瞧 ！ ” 兵 十 站 起 身 ， 取 下 挂 着 的 火 绳 枪 ，
装 上 了 火 药 。

そ の と き 兵 十 は、 ふ と 顔 を あ げ ました。 と 狐 が
家 の 中 へ は い っ た で は あ り ませ ん か。 こ な い だ う な ぎ を
ぬ す み や が っ た あ の ご ん 狐 め が、 ま た い た ず ら を し に
来 た な。

「 よ う し 」

兵 十 は 立 ち あ が っ て、 納 屋 に 挂 け て あ る 火 绳 銃 を
と っ て、 火 薬 を つ め ました。



然后不出一点声息悄悄靠近正准备离去的小权，“砰”地开了一枪。

小权噗咚一声倒了下去。兵十马上跑了过去，这时往家里一看，竟发现家里地上放有一堆栗子。

“啊！”兵十吃惊地低下头看着小权问道：“小权，经常送栗子给我的是你吗？”

小权闭着眼有气无力地点了点头。

兵十手中的火绳枪突然松手滑落在地，枪口还缓缓冒着一缕青烟。

そして ^{あしおと} 足音を ^{しの} ばせて ^{ちか} よって、今 ^{いま} ^{とぐち} 戸口を ^で 出ようとする ^{ごん} を、ドンと、うちました。

ごんは、ばたりと ^た おれました。

^{ひょうじゅう} 兵十は ^{かけ} よって ^き 来ました。家 ^{いえ} の ^{なか} 中を ^み 見ると、土間 ^{どま} に ^{くり} 栗が、かためて ^お いて ^{ある} のが ^め 目に ^{つき} ました。

「おや」と ^{ひょうじゅう} 兵十は、びっくりして ^{ごん} に ^め 目を ^{おと} 落しましたた。

「ごん、お前 ^{まい} だったのか。いつも ^{くり} 栗を ^{くれ} たのは」

ごんは、ぐったりと ^め 目を ^{つぶ} ったまま、うなずきました。

^{ひょうじゅう} 兵十は ^{ひなわじゅう} 火縄銃を ^ば たりと、とり ^お 落しました。青 ^{あお} い ^{けむり} 煙が、まだ ^{つつぐち} 筒口から ^{ほそ} 細く ^で 出て ^い ました。

一颗硬糖

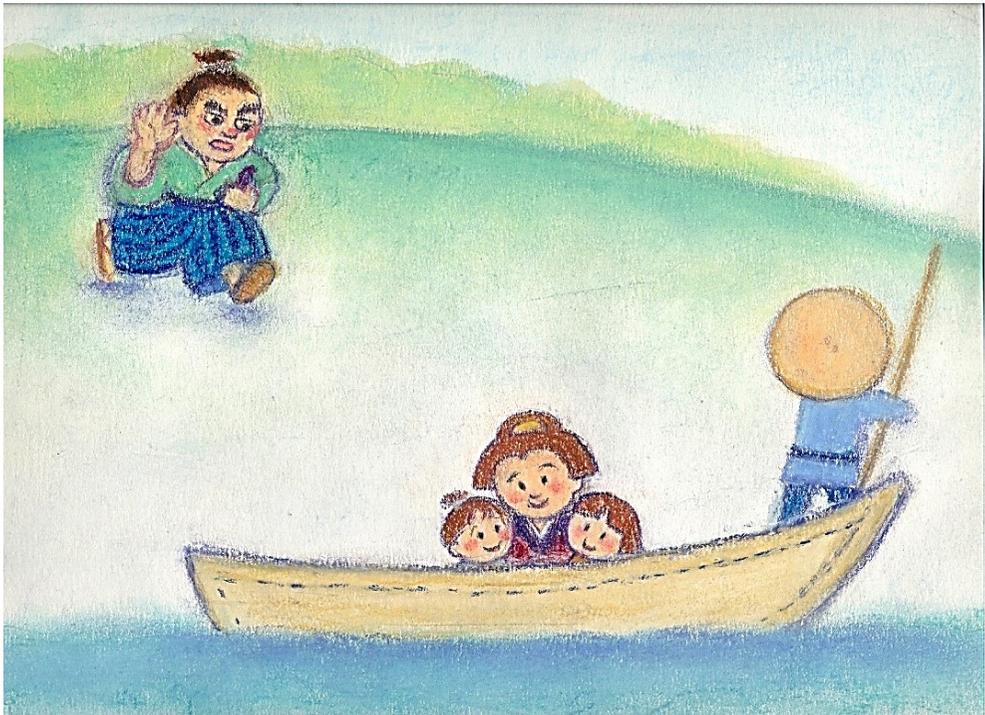
だま
あめ玉

新美南吉

にいみなんきち
新美南吉



译：承红磊



温暖的春日里，一位妇人带着两位小朋友乘上渡船。

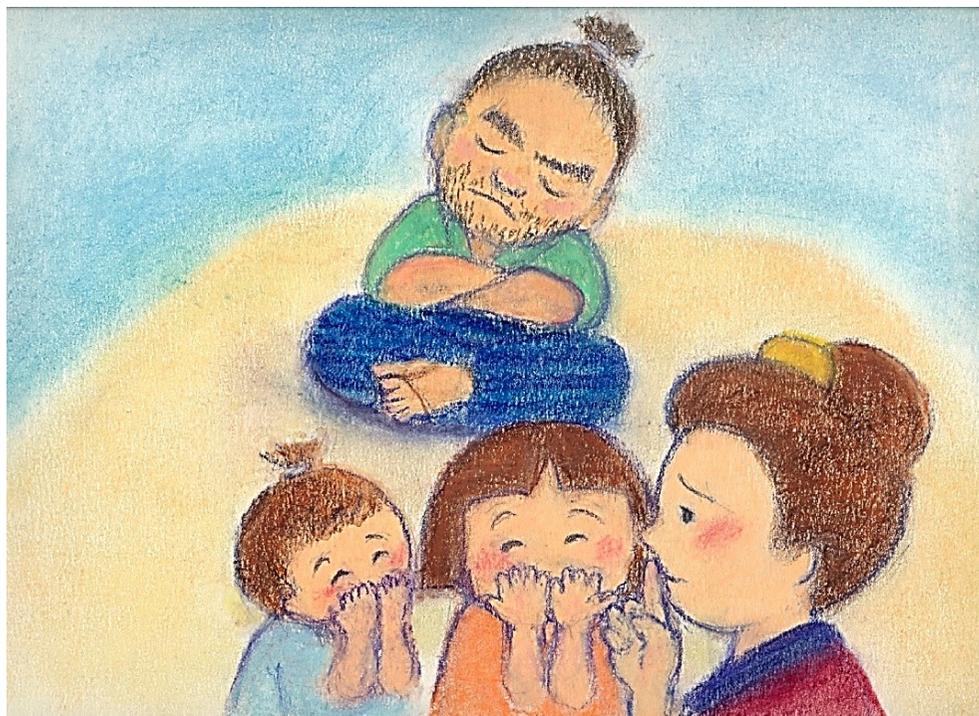
船正要出发，“喂，请等等”，一名武士一边挥着手，一边从河堤前跑过来，跳上了船。

はる 春の あたたかい ひの こと、わたし ^{ふね}舟に ふたり 二人の ちい 小さな こ
どもを つ 連れた おんな 女の たびびと 旅人が の 乗りました。

^{ふね}舟が て 出ようと すると、

「おうい、ちょっと ^ま待って くれ」

と、土手の向こうから手をふりながら、さむらいが一人
走って来て、舟に飛びこみました。



开船了。

武士咚地一声坐在了船中央。暖洋洋的天气里不知不觉打起了瞌睡。留着黑胡须、看起来很强壮的武士，打起盹来，孩子们觉得奇怪，忍不住笑出声来。母亲把手贴着嘴唇，“嘘……”。武士生气了，可了不得。孩子们连忙闭嘴。

ふねは 出^でました。

さむらいは 舟^{ふね}の 真^まん中^{なか}に どっかり すわって いました。

ぽかぽか あたたかいので、そのうちに いねむりを 始^{はじ}めました。

黒^{くろ}い ひげを 生^はやして 強^{つよ}そうな さむらいが、こっくり こ
っくり するので、子^こどもたちは おかしくて、ふふふと 笑^{わら}いま
した。

お母^{かあ}さんは 口^{くち}に 指^{ゆび}を 当^あてて、

「だまって おいで」

と 言^いいました。

さむらいが おこっては 大^{たい}変^{へん}だ からです。

子^こどもたちは だまりました。



母亲从怀里取出纸袋。然而，只剩下一颗硬糖了。

“给我。”

“给我。”

两位小朋友从两边向妈妈央求。糖只有一颗，母亲左右为难。

“好孩子，等一等。靠岸后，给你们买。”母亲虽这样表示，孩子们还是缠着说：“给我，给我”。

お母^{かあ}さんは、ふところから 紙^{かみ}の ふくろを と^とりだ^だしました。

ところが、あめ玉^{だま}は、もう 一つ^{ひと}しか ありません でした。

「あたしに ちょうだい」

「あたしに ちょうだい」

ふたり^{ふたり}の 子^こどもは、両方^{りょうほう}から せがみました。あめ玉^{だま}は 一つ^{ひと}しか ないので、お母^{かあ}さんは こまって しまいました。

「いい 子^こたちだ から、待^まって おいで。向^むこうへ 着^ついたら、
か^か買って あげるからね」と 言^いって 聞^きかせても、子^こどもたちは、
「ちょうだいよう、ちょうだいよう」と だだを こねました。



本来在打瞌睡的武士，睁大了眼，看到孩子们在央求。

母亲吓坏了。被人搅乱了瞌睡，这位武士一定是生气了。

“听话”，母亲安抚孩子们。但是，孩子们并不听。

于是，武士嗖地一下拔出了刀，来到了母亲和孩子们跟前。

母亲脸色铁青，赶紧护着孩子，觉得武士要砍打扰了他瞌睡的孩子。

“把糖拿出来”，武士说。

母亲战战兢兢地拿出了糖。

いねむりを して いた はずの さむらいは、ぱっちり 目を
あけて、こどもたちが せがむのを みて いました。

お母^{かあ}さんは おどろきました。いねむりを じゃまされたので、
この おさむらいは おこって いるに ちがないと おも 思いました。
た。

「おとなしく して おいで」

と、お母^{かあ}さんは 子^こどもたちを なだめました。

けれど、子^こどもたちは 聞^ききません でした。

すると、さむらいが すらりと 刀^{かたな}を ぬいて、お母^{かあ}さんと 子^こどもたちの 前^{まえ}に やって 来^きました。

お母^{かあ}さんは 真^まっ青^{さお}に なって、子^こどもたちを かばいました。

いねむりの じゃまを した 子^こどもたちを、さむらいが きて しまうと 思^{おも}ったのです。

「あめ玉^{だま}を 出^だせ」と、さむらいは 言^いいました。

お母^{かあ}さんは、おそるおそる あめ玉^{だま}を 差^さし出^だしました。



武士把糖放在船舷上，用刀“砰”地一声切成了两半。“给”，把它分给了孩子们。

さむらいは それを 舟の へりに のせ、^{かたな} 刀で ぱちんと
^{ふた} 二つに わりました。 そして、「そうれ」と、二人の ^こ どもに
^わ 分けて やりました。



然后，又回到原来的地方，打起了瞌睡。

それから、また ^{もと} 元の ^{ところ} 所に ^{かえ} 帰って、こっくり こっくり ねむ
り ^{はじ} 始めました。

たげんごでんしえほんぶんこ
多言語電子絵本文庫 14

ばん ぎつね だま
バイリンガル版 ごん狐・あめ玉

ちゅうごくご にほんご
中国語と日本語

ぶん にいみなんきち
文：新美南吉

ねん ねん にほん じどうぶんがくさつか ぎつね ねん だいはりょうさく
1913年 - 1943年、日本の児童文学作家。『ごん狐』（1932年）は、代表作で
あり、しょうがっこう きょうかしょ けいさい
あり、小学校の教科書に掲載されている。

ぎつね
ごん狐 絵：画工舎、浦田真理子

ほんやく わたなべ とし
翻訳：渡辺 敏

きょうりよく にほんしょうがいしゃ きょうかい
協力：日本障害者リハビリテーション協会

<https://www.jsrpd.jp/>

だま
あめ玉 絵：稲生みどり

ほんやく
翻訳：承紅磊

きょうりよく ほうじん ちきゅう むら せかいげんごはくぶつかん
協力：NPO法人地球ことば村・世界言語博物館

<https://www.chikyukotobamura.org/home.html/>

こうせい
校正：楊 敏

きかく せいさく たげんご えほん かい
企画、制作：多言語絵本の会RAINBOW

たげんご えほん かい
<多言語絵本の会RAINBOW>

もくてき
【目的】

- ① 外国につながる子どもたちの母語、母国語の保持、育成
- ② 日本語で育つ子どもたちの外国語への興味、関心の拡大
- ③ 外国につながる人たちの社会参加の機会

ねが かつどう
を願って活動しています。

かつどうないよう
【活動内容】

たげんご がっこう としょかん
多言語よみきかせ（学校や図書館などで）

たげんご でんし えほん せいさく
多言語電子絵本の制作

(RAINBOW のホームページサイトで公開)

<http://www.rainbow-ehon.com>



じゅしょうれき
【受賞歴】

ねん はくほうしょう
2017年 博報賞

ねん ぶん か ちようちようかんひようしょう
2018年 文化庁長官表彰

ねん こうろうしょうこ かにいきよくちようしょう
2019年 厚労省子ども家庭局長賞

れんらくさき
【連絡先】

nihongo_crayons@yahoo.co.jp

RAINBOWの^{かくげんご}各言語ページ

にほんご		えいご		ちゅうごくご	
かんこくご		ポルトガルご		スペインご	
インドネシアご		フィリピンご		ベトナムご	
ネパールご		タイご		ロシアご	
その他のアジアのことば		その他のヨーロッパのことば		アラビアご	
スワヒリご					

1	バイリンガル にほんむかしばなし	インドネシア語と日本語
2		英語と日本語
3		韓国語と日本語
4		スペイン語と日本語
5		中国語と日本語
6		ネパール語と日本語
7		フィリピン語と日本語
8		ベトナム語と日本語
9		ポルトガル語と日本語
10	ロシア民話 金の魚のはなし	日本語、ロシア語、英語、 中国語、ポルトガル語
11	バイリンガル版 ごんぎつね ・ あめだま	インドネシア語と日本語
12		英語と日本語
13		韓国語と日本語
14		中国語と日本語
15		フィリピン語と日本語
16		ベトナム語と日本語

